



問一 1 目標 2 息苦〔い〕 3 逆 4 耕〔し〕

問二 江戸時代に入って、自分たちが不要なことに気づいた武士が、過去の功績や特権を守るために、倫理や美意識をエスカレートさせ、自身の存在意義を正当化した点。

問三 東京の現場

建設会社の社員に管理され、自分の作る建築の意義や社会の求める建築や都市を考える時間のない、仕事に追われこなすだけの息苦しい所。

禰原という場所

色々な職人と寄り添い友人と言える関係を築くことで創造的な仕事ができ、社会が求め地域に根ざしたものを作れるという希望の抱ける、楽しい所。



問一 誰とでも交友関係を結び、自由にふるまう朱里にひかれていたが、学校をさぼって海に行くという言葉が与える美しさに魅了された。

問二 朱里の自由な一日に憧れ、朱里と一緒に一日を過ごせることへの嬉しさはあるが、学校を休んだ後の面倒を考えると素直には喜べない複雑な思いと不安を抱いたから。

問三 朱里は私に優しい表情や飾らない素の姿を見せてくれてはいるが、実は心を許してくれていないのではないかということ。

問四 朱里と私は互いに特別な友人だと思っていたが、それはひとりよがりであって、朱里にとって私は単なるクラスメイトの一人に過ぎないのではないかと不満に思っている。

出典は、隈研吾『ひとの住処』

問二 傍線を含む形式段落に、「80年代の建築の世界」についての説明があります。「西欧に追いつくべく建築に注力し1970年にはその目標を達したにもかかわらず、80年代になっても、依然として建築主導であり、作る必要のないものさえも作られ続けなければならなかった」とあります。時代が求めているのにもかかわらず一部の利権のために建築は勢いを衰えさせることなく存在し続ける状況でした。それが江戸の平和な時代の武士とよく似ているということです。共通点でなく、『『戦場を失った武士』のどのような点に『よく似ていた』のか』を問われています。冒頭部分の、江戸時代の武士が自分たちを不要と自覚しながらも立場を守る状況を整理することがポイントです。

〈解答例〉

④〈江戸時代に入って、自分たちが不要なことに気づいた武士が〉、④〈過去の功績や特権を守るために、倫理や美意識を エスカレートさせ〉、④〈自身の存在意義を正当化した点〉

問三 「建築家の筆者」にとって、「東京の現場」と「禰原という場所」は対照的な所でした。それぞれ対比する表現を探してみましょう。大きな違いは「職人との関わりの有無」です。「東京」では職人との関わりを禁じられ、話すのは建設会社のエリート社員である現場所長とだけ、しかも話す内容はコストとスケジュールだけです。建設途中で新しいアイデアを思いついてもそれを取り入れられることはありません。いわゆる、作業をこなすことが最優先されている、筆者にとっては面白くない時間を過ごしていました。

それに対して「禰原」では色々な職人と自由に話をし友人にもなりました。その場で思いついたアイデアに対して職人が融通を利かせてくれたり、その土地に合った材料を取り入れてみたりと、楽しい時間を持てたことでしょう。また、若い建築家からアドバイスを求めらたときの回答で、筆者は「建築家の仕事観」を語っています。「自分の建築にどんな意味があるのか、社会が、未来の人間がどんな建築や都市を必要としているのかを考える」時間が大切であると考えているようです。

— <解答例> —

東京の現場

③ <建設会社の社員に管理され>、③ <自分の作る建築の意義や社会の求める建築や都市を考える時間のない>、② <仕事に追われこなすだけの息苦しい所>。

禰原という場所

③ <色々な職人と寄り添い友人と言える関係を築くことで> ③ <創造的な仕事かでき、社会が求め地域に根ざしたものを作れるという> ② <希望の抱ける、楽しい所>。

二 出典は柚木麻子『終点のあの子』

問一 「希代子は完全に朱里に魅せられた」という表現の「完全に」にまず注目しましょう。これまでも希代子は朱里に惹かれていて、傍線部でそれが「完全に」なったのです。問題文の条件にも「これまでのこともあわせて」とあります。まずは、これまでに朱里のどんなところに魅せられていたかを考えましょう。「隣の芝は青く見える」という言葉があるように、人間には自分が持っていないものを持っている人に惹かれ、魅力を感じる心理があるようです。学校での友好関係、遅刻や欠席の多さなど、気の向くままに行動している朱里の様子。それが他者に疎まれるどころか、クラスメイトの注目を集め、厳しい指導で有名な先生にも目をかけられる、そんな自分の価値観とは大きくずれた生き方をする人間に今まで出会ったことがなかったのでしょう。「朱里は今日、どんなことをして自分を驚かせてくれるのだろう」と、日々わくわくしていたことでしょう。ですがこれまではあくまでも「あわせて」の内容なので、解答の中心にはなりません。どんなできごとが「完全に」させたのでしょう。傍線下に「学校をさぼって海に行く——。その言葉は美しい音楽とか、宝石のように思われた」とありますね。「美しい音楽」「宝石」と比喩が用いられていますので、具体的表現に書き改めましょう。

— <解答例> —

⑤ <誰とでも交友関係を結び、自由にふるまう朱里にひかれていたが>、⑥ <学校をさぼって海に行くという言葉が与える美しさに魅了された>。

問二 問一で「学校をさぼって海に行く」という朱里の自由奔放、天真爛漫さで「完全に魅せられ」、その憧れの人からの誘いによってその人と同じ世界に飛び込める嬉しさを抱きました。が、自分の気持ちの赴くままに行動できない希代子の真面目さがうかがえます。希代子の背中には冷たい汗が伝い、頭の中では学校をさぼった後に起こるであろう厄介な出来事が浮かんできます。しかし、学校をさぼって海に行くことを断り学校に行くことで、朱里との友情も終わりを告げるでしょう。葛藤に葛藤を重ねている、希代子の苦しい表情が想像できますね。

— <解答例> —

⑥ <朱里の自由な一日に憧れ、朱里と一緒に一日を過ごせることへの嬉しさはあるが>、⑤ <学校を休んだ後の面倒を考えると素直には喜べない複雑な思いと不安を抱いたから>。

問三 学校をさぼって海に行くという誘いに乗らず、「意気地なし」というきびしい言葉を投げかけた朱里は、さぞ腹を立てているだろう、さらにひどい罵声を浴びせられるのではないかと怯えながら翌日に登校するも、朱里はあっけらかんとした様子でした。のんきに笑う朱里の表情に、希代子の朱里に対する憧れの気持ちは少し陰ります。「まだ、朱里の家に誘われたことがない。学校と一緒にさぼらなかったことが影響しているのかもしれない」と、友情の深まりがなかなか進展しない原因は自分の勇気のなさからかと思いながらも、朱里への思いは陰りから「疑わしさ」に変わっていきます。「柔らかそうな頬」「投げ出される白い脚」は、朱里が希代子に気を許している証であると思いたい気持ちもあるものの、希代子に気を持たせるためにわざと気を許しているかのように見せている「あざとい」行動なのではないか、自分はもてあそばれているのではないかという気持ちが強くなってきています。

— <解答例> —

⑤ <朱里は私に優しい表情や飾らない素の姿を見せてくれてはいるが>、⑥ <実は心を許してくれていないのではないかということ>。

問四 朱里に翻弄されて朱里に対しての魅力は少しずつ弱くなってきてはいても、友好関係の広い朱里の友人の中で自分は「他の子と差をつけている部分もある」としています。そんな中、放課後に東急ハンズに行った際に、希代子の知り合いの瑠璃子さんに偶然出会います。東急ハンズに来た理由は朱里がほしい絵の具を買うことでしたが、朱里は瑠璃子さんとの会話に夢中になって、絵の具のことなどどうでも良さそうです。相変わらずの天真爛漫、いや自分勝手ですかね。そう、希代子は気づきました。何にも囚われない自由に振る舞う朱里の言動は天真爛漫などというプラスの言葉で表すものではなく、人の迷惑を考えず人の気持ちをないがしろにする、単なる自分勝手なのだと。自分がお金を出して購入した絵の具なので「フォーゲットミーノットブルー」という色の名前はわかっていたにもかかわらず、冷たく「その絵の具」と表現していること、そしてその絵の具を何度も「握り、凹ませ」ている希代子の気持ちを考えてみましょう。

— <解答例> —

④ <朱里と私は互いに特別な友人だと思っていたが>、④ <それはひとりよがりであって>、④ <朱里にとって私は単なるクラスメイトの一人に過ぎないのではないかと不満に思っている>。